

### 幅広い学びの機会を ～日本語会話クラス、スタート～



毎週15人以上の子どもが勉強しています



何度も何度も発音して覚えます



少しずつ会話ができるようになりました

皆さん、こんにちは。日本では、もう真冬の寒い毎日でしょうか。こちらカンボジアでは乾季を迎え、昼間はカラッと暑い陽気ですが、朝晩には驚くほど冷え込む時期になりました。

今回のDream通信では、新たに始めた日本語の会話クラスについて、日々の子どもたちの勉強の様子とグループ農作業の様子のお伝えします。

#### 日本語会話クラス開始

園では今年の7月に日本語のクラスを再編成し、習熟度によって3つのクラスに分けました。日本語を勉強出来るのは希望者の中から学校の成績が中間以上の子どもたちのみです。そのほとんどの子どもたちが現在、毎晩30分という短い時間の中で一所懸命勉強に授業に取り組んでいます。最近では日本語で日記を書くなど、少しずつ力をつけてきています。

そして今回新たに開始したのは、日本語の会話に重点を置いたクラスです。上記の3クラスとは別に、中学生以上の子どもたちの中から、日本語を勉強したいけれど成績があまり良くないので授業を受けられない子、また日本語に興味のある小学生の子どもたちが対象です。このクラスでは、日曜日の昼休みを利用し、会話練習のみで授業を行います。難しい文法や書き取りなどの勉強はしません。

週に1度だけの授業ですが、誰でも参加できるように、毎週自由参加にしています。入れ替わり子どもたちが参加し、毎週約15名の子どもたちが日本語を勉強しています。このクラスを始めてまだ間もないですが、「勉強した言葉でお客様とお話できた!」と、嬉しそうに報告してくる子どももいました。子どもたちは皆、里親様や園に遊びに来てくださるお客様とお話するのをとても楽しみにしています。通訳を介すのではなく、直接会話をしたい、と考える子どもたちが多くいます。話したい!という欲求が、子どもたちの学習意欲に繋がっています。今後も子どもたちのやる気を伸ばし、もっともっと会話ができるように教えていきたいと思えます。



高校1年生の教室

## 日々の勉強

今年10月に新学期が始まって、子どもたちの生活には少し変化がありました。新高校1年生の8名は、毎朝6時頃には園を出発し、夕方6時まで授業を受け、今までよりも園にいる時間が少なくなり、毎日学校の勉強に追われています。

そして新中学1年生になった16名の子どもたちもまた、午前授業を受けた後、昼食を食べに園に戻り、また午後から学校に行き、学校が半日だけの小学生の時よりも随分忙しい毎日を送っています。

学年が上がり科目が増え、勉強が難しくなり、中には、授業についていくのが大変という子どもも出てきます。

園では、夜の自習時間に宿題、復習、予習を行なっています。勉強がわからない子も、一所懸命に教えてくれる友達や上級生に支えられ、わからないところを勉強しています。毎週行われる学年ごとのミーティングでも、全員で「数学が難しい」などの悩みも話し合い、皆で解決法を考えるようにしています。

園の子どもたちには、もし自分が大変であっても、周りの人を見て、もっと大変な人がいれば必ず助けるという事が出来るように、そして助けてくれた友達には恥ずかしくても「ありがとう」と言えるように指導しています。そうして皆が毎日の生活に、勉強に、精一杯生き生きと励んでいます。



友だちに教わり復習します

## グループ農作業

現在、グループ農作業の一環として行なっているのが、農作物の収穫量をグループで競い合う、という取り組みです。収穫物を市場での売り値に換算し、購入した種の価格を差し引き、結果を数値化します。そして、毎月、1ヶ月のグループごとの結果を発表し、上位のグループを表彰しています。

子どもたちは毎日の農作業が終わると、自分たちの畑で採れた野菜を抱え、ぞくぞくと職員のもとにやってきて計量を行ないます。先月は、1位のグループが約30ドル、全てのグループを合計すると約160ドル分もの収穫が出来ました。結果が数字になることで、子どもたちはますますやる気を燃やしています。

今後は子どもたちに、いろいろな物には全てお金がかかっていることを考えさせたいと思っています。園では日々の生活の中で、お金について考える機会はなかなかありません。子どもたちが園を出た後には、自分でお金を稼ぎ、管理できなければなりません。自分たちで物を生産するという経験を通し、お金を稼ぐこと、管理することを学び、将来に生きる力を身につけていって欲しいです。そして今後も様々な方法で、子どもたちが学べる機会を私達職員が作っていきたいと思います。



かごいっぱいのおクラは3kgで1.5ドル



1か月のグループの成果を発表